

第 16 回 北陸銀行若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名	助成金額
原田魁成	人間社会研究域経済学経営学系・講師	600,000 円
研究課題名	多様なビッグデータを活用した訪日外国人客に対する EBPM 型観光誘致戦略モデルの構築に関する研究	
研究の概要	<p>[研究開始当初の背景, 研究の目的, 研究の方法等について記入]</p> <p>本研究では石川県経済の更なる活性化に貢献するためのモデルを開発することを目的とし、日本人観光客における消費行動の活発化に関する機械学習モデルを用いた解析を行った。また外国人観光客の石川県における観光ニーズを多角的に把握するため、SNS に記載される口コミデータに対し自然言語処理モデルを適用することで解析を行った。</p>	
研究の成果	<p>[成果の具体的内容, 意義, 重要性及び今後の展望等について記入]</p> <p>本研究では①日本人観光客の消費構造分析及び②訪日外国人観光客の石川県内観光地別口コミ解析を行った。①について、訪日外国人観光客の個票データはサンプル数が制限されていることから、日本人観光データを用いた観光モデル構築を優先した。石川県を訪れる日本人観光客の消費動向を調査したオープンデータ「Milli」を使用し、県内消費額の高い上位 25%と下位 25%の観光客における来訪者属性(年代、性別、来県目的、交通手段、世帯年収等)を変数に用いた機械学習モデルによって観光客の消費構造を分析した。XGBoost 法による分析の結果、日帰り観光客の高消費群は「地元の美味しいものを食べる」特徴が最も顕著であり、次いで「新幹線を利用」、「子連れ家族や夫婦・恋人」、「利用施設の満足度が高い」などの傾向があった。県内宿泊者は日帰り客と概ね同様な傾向がみられつつも、「温泉や露天風呂を目的に来訪」や「宿でのんびり過ごす」などの特徴が見受けられた。また来訪季節別に着目した分析では春と冬は「新幹線の利用」や「温泉等を目的に来訪」の特徴がみられ、特に春は「女性や夫婦・恋人」が高消費な傾向がみられた。夏と秋は「地元の美味しいもの」や「インターネット・アプリの利用」の特徴が見受けられた。これらを総じて、関東圏の来客は高消費な傾向がみられる一方で、他地方の潜在顧客に対して食や温泉などを中心とした石川県の観光資源を PR することが有益であると推察される。</p> <p>②について、観光地に対する訪日外国人の口コミレビューデータであり、米国や欧州などの英語圏の利用者が多い TripAdvisor における石川県観光地のおすすめ上位 5 位までの観光地の口コミデータをスクレイピングソフト Octoparse によって収集し、自然言語処理モデルと機械学習モデルを組み合わせる観光地別に訪日外国人の観光ニーズ解析を行った。外国人人気の高い兼六園とひがし茶屋街などの観光地を対象に分析を行った結果、多くの観光地に共通して歴史的建造物やその保存に関する評価や体験型の観光スタイルを楽しむ様子などが口コミとして多く投稿されていた。他方でひがし茶屋街では”close”の単語に象徴される、目的の店が開店していなかったことや街全体の営業時間外に訪問してしまった、などの情報不足によって観光満足度を下げている要因も見受けられた。</p> <p>①と②から日本人観光客の消費動向と外国人観光客の観光地評価の分析を行った。今後は①の発展として「Ⅰ. 訪日外国人観光客の観光行動分析」を、②の発展として「Ⅱ. 訪日外国人観光客における観光ニーズの他地域比較」を実施したい。また①と②を組み合わせつつ、令和 6 年能登半島地震からの復興に学術的アプローチから貢献する目的で「Ⅲ. 日本人及び訪日外国人観光客における能登観光戦略モデル」の開発にも着手したい。</p>	

研究成果発表状況	<p>〔雑誌論文、学会発表、図書、新聞掲載、研究に関連して作成したWebページ等について記入〕</p> <p>原田魁成, 寒河江雅彦(2024), 「石川県観光マイクロデータを用いた国内居住者へのEBPM型観光誘致モデル構築に関する研究」, 2024年度統計関連学会連合大会</p>		
経費の執行状況	費目	事項 (主な使用事項を記載)	執行額(円) (費目毎総額を記入)
	物品費	ポータブルHDD	15,120
	旅費	熊本県：観光資源(震災遺構)に関する調査と打ち合わせ 宮城県：観光資源(震災遺構)に関する調査と打ち合わせ 東京都：関係人口創出に関する打ち合わせ	188,880
	人件費・謝金	データ収集及び解析の謝金	396,000
	その他		0